



写真1 本州のヒヨドリ

小笠原のヒヨドリは2度海を渡る。
でも3度目は渡らない。



国立科学博物館
動物研究部
西海 功



国立科学博物館
植物研究部
杉田 典正



森林研究部門
野生動物研究領域 主任研究員
川上 和人

ヒヨドリは日本を代表する不人気鳥類です(写真1)。農業被害や洗濯物狙いの糞害、うるさい鳴き声などが原因です。北海道から沖縄まで全国に分布し、迷惑ゆえに一般にも名の知られた鳥となっています。

世界自然遺産の島である小笠原諸島にもヒヨドリがいます。本州の個体と比べると全体に褐色みが強いですが、一見すると彼らの形態は本州と大差ありません。そんな彼らにも不思議な点がありました。小笠原諸島の中でも、北部の「小笠原群島」と南部の「火山列島」で外見が異なるのです。小笠原群島の亜種オガサワラヒヨドリに比べ、火山列島の亜種ハシブトヒヨドリは見るからに太いくちばしを持っています(写真2、3)。

そこでDNAを分析してみたら、面白いことがわかりました。なんと、彼らは異なる祖先から進化していったのです。小笠原群島のヒヨドリは沖縄の八重山諸島に、火山列島のヒヨドリは本州以北に起源を持っていました。両者は隣に住んでいるものの、出身も違えば交流もない全くの他人で、2度にわたり別々に海を渡って来ていたのです(図1)。

小笠原群島は四千万年以上前にできた古い島、火山列島はせいぜい数十万年前にできた若い島です。おそらくまず八重山諸島出身のヒヨドリが小笠原群島に定着したでしょう。その後、火山列島が出現すれば、隣の小笠原群島から飛んでくると考えるのが自然です。しかし、そこに定着したのは遥か北方から飛んできたヒヨドリだったのです。

両者の距離はたった150キロです。本州以北では

渡りもするヒヨドリにとって、それほど遠い距離ではないはずですが、3度目の海越えはありませんでした。八重山諸島から小笠原群島まで千キロ以上を飛んできたヒヨドリが、なぜ火山列島には移動しなかったのか？北方のヒヨドリがなぜ小笠原群島を飛び越して南にある火山列島にきたのか？なぜくちばしが太いのか？まだまだ謎は尽きません。

島という特殊な環境では、特殊な生物が進化します。何の変哲もなく見えるヒヨドリですら、島では特異化していました。そんな小笠原のヒヨドリの謎を知っていただくと、少しは彼らに愛着がわくかもしれません。

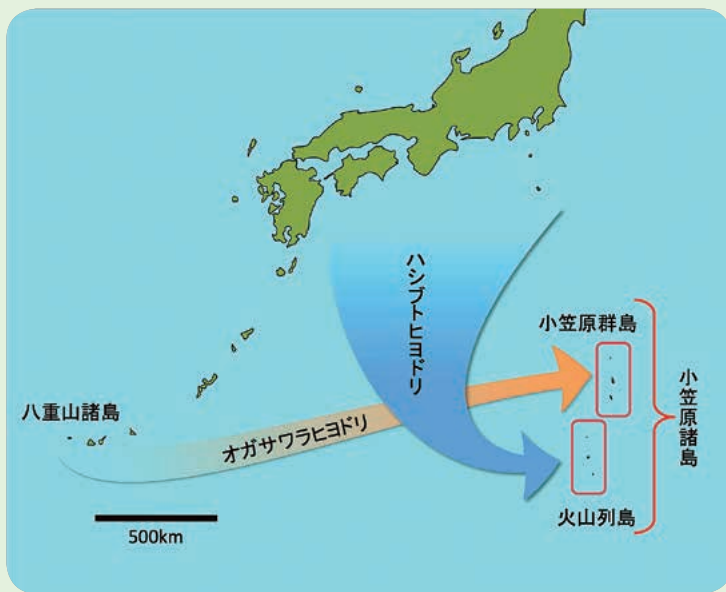


図1 小笠原諸島のヒヨドリの起源



写真3 ガジュマルを食べるオガサワラヒヨドリ



写真2 オガサワラヒヨドリ(上)とハシブトヒヨドリ(下)の仮剥製標本